

手順と様式（総論）

- ・ マニュアル化の意義
- ・ 最低限の様式（説明様式と本人提出書類の区別）
- ・ 生活記録表について

■原則論はわかった、でも運用がわからない？

回答：

原則論と実務運用は「別物」。

いちいち原則や各者役割を考えていたら、労務実務は大混乱！

考えなくても書類が揃えば、**自動的に結論が出る**

仕組みが、【様式による運用】

さらに人事担当者不在の遠隔拠点の管理にも極めて有用

手順と様式の目的

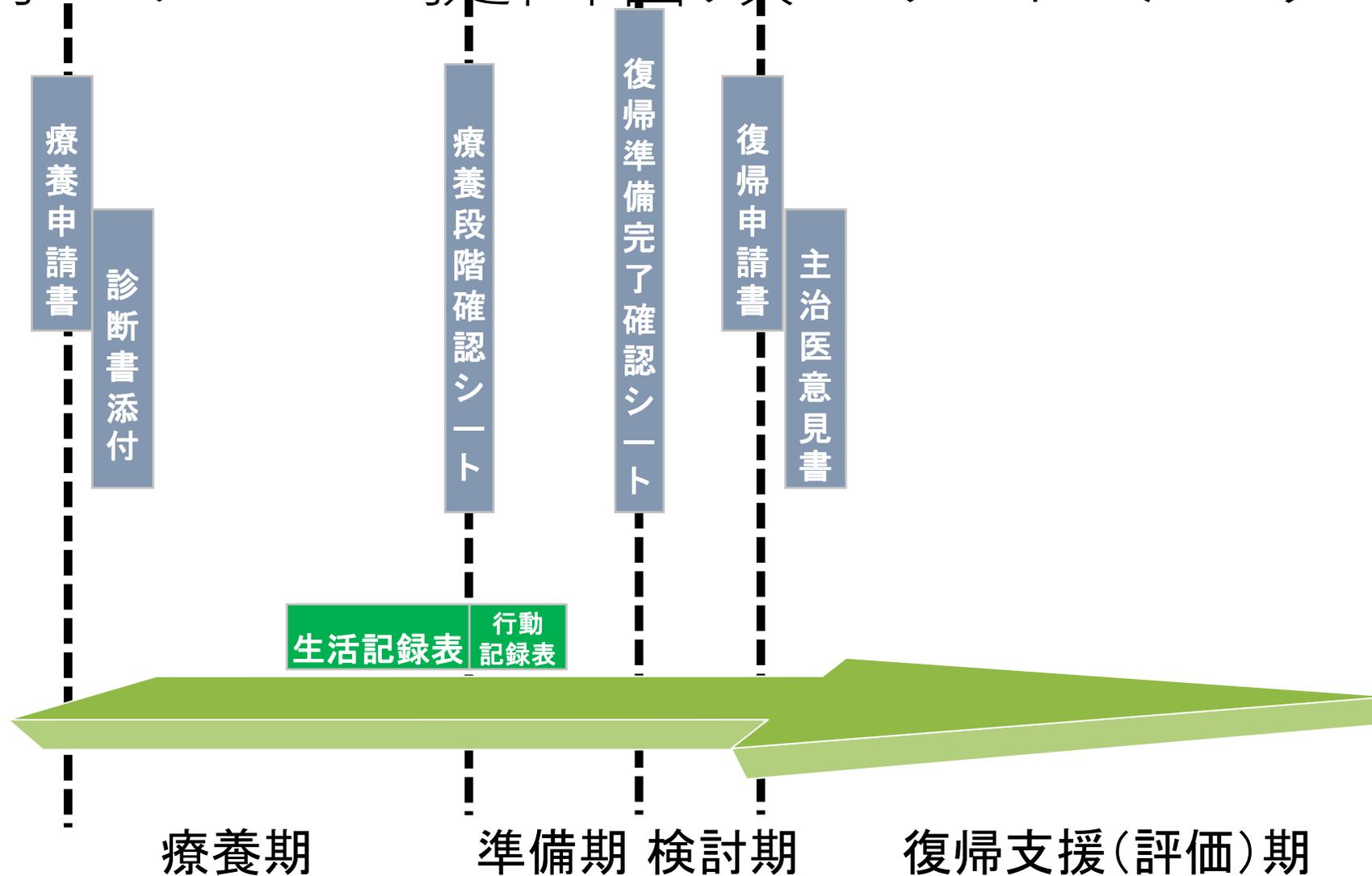
- **原則論と実務運用は別物**

- その場でその都度原則から考えていては大変

- **様式・マニュアルによる運用のメリット**

- 本人との程よい距離感を保つことができ、互いに冷静な対応が可能
- 自動的に結論を出せるため、対応を担当者や各拠点に任せられる
- 制度や様式に則り、どの社員に対しても公平に対応できる

初期モデル：提出書類とタイミング



初期モデルの問題点

- ・ 本人申請主義であるが、期間が空くことで提出が滞り、結局督促が必要になる
- ・ 療養期間が長い（つまり復職可能性の低い）ケースにフォーカスされていて、2-3ヶ月のその後も戦力になる社員からの的がずれている（療養段階確認シート、復帰準備完了確認シート、主治医意見書を同時に提出する例も）
- ・ 本人やご家族との良好なコミュニケーションという視点が希薄

生活（行動）記録表の注意点

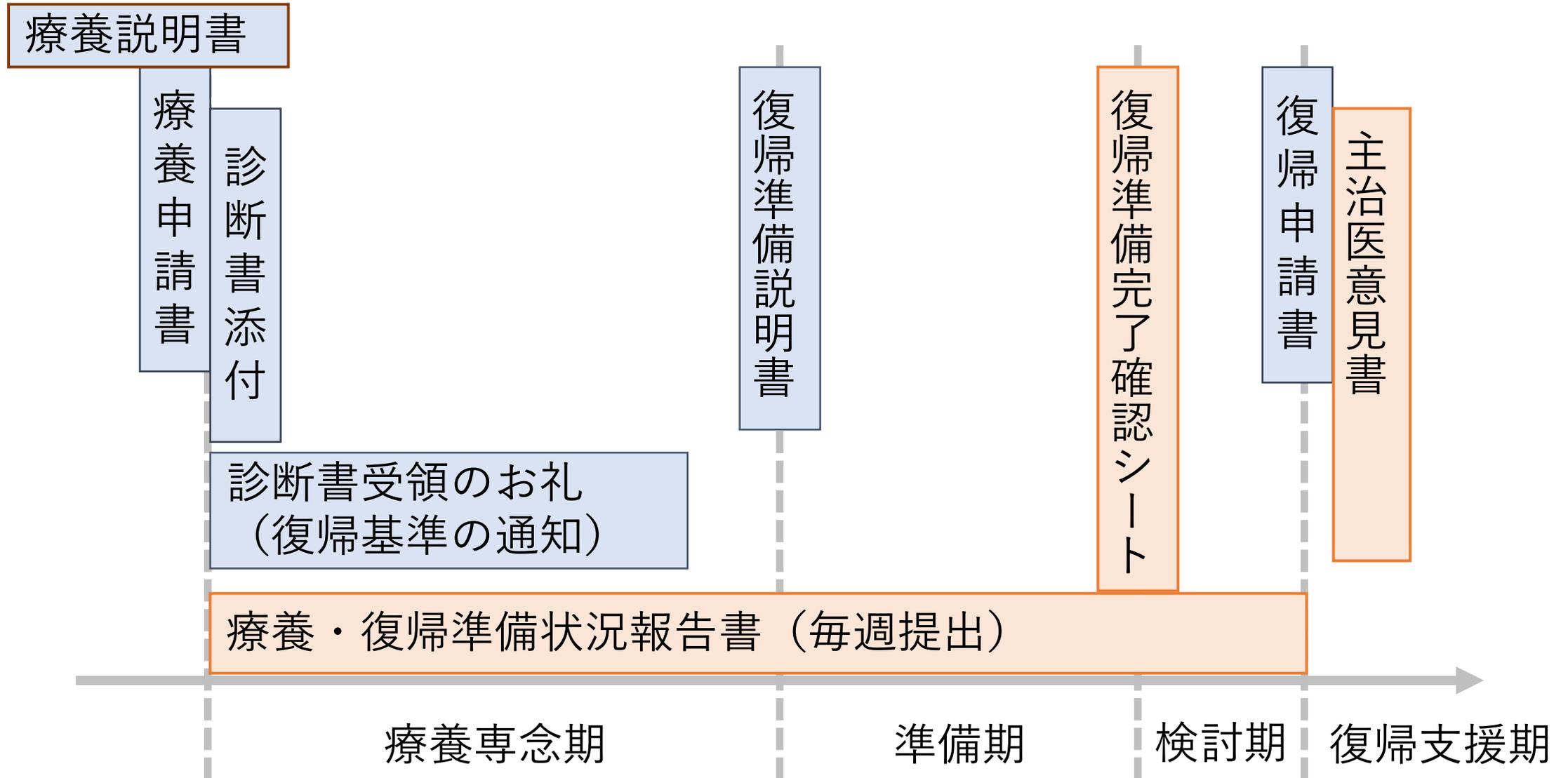
- ・判断が難しい（医療職以外では運用困難）
- ・できて当然の水準の内容しか確認することができず、復帰判断のプラス材料にはならない（→最初から復帰判定資料とはしない運用）
- ・上記ポイントにも関わらず、相対的に良くなったという理由で、基準を満たしていない状況なのに復帰を許容しやすくなる（無理なトライにつながる）。

明日から使える、5点セット

新ミニマムセット + 2点
(必須の手順と様式の確認)

- ①療養説明 (簡単版)
+ 診断書受領のご報告 (主治医向け)
- ②療養・復帰準備状況報告書 (週1回)
+ 復帰準備完了確認シート
- ③主治医意見書依頼文・様式

手順と様式（実務モデル）



説明書類と本人提出書類

- ・ 説明

療養説明→療養の手引（本人・家族）、復帰準備説明書
主治医への診断書受領のお礼

- ・ 提出書類

療養・復帰準備状況報告書
復帰準備完了確認シート
主治医意見書
療養申請書、復帰申請書